

授業番号	B200720019				
科目名(英語標記)	専門演習I(Junior Seminar I)				
担当者(英語標記)	根本 敏則(Toshinori Nemoto)	履修開始学年	3	単位数	1

授業のねらいと到達目標 (DP,CPIにおける位置づけを含め)	変動する社会にともなう就職活動をにらみ、経済学の観点から社会を見つめ、問題意識をもって論理的表現力を養うことをねらいとする。テキストの内容を要約し、自分の意見を整理し、それらを読みやすいレポートにまとめる能力をつけることを到達目標とします。
授業の進め方(履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め)	教科書の各章に関し、レポートの作成にあたった学生は、内容の要約、自分の意見をレポートにまとめ、全員に配布できるようコピーしておくこと。 それ以外の学生は質疑、討論に参加できるよう精読しておくこと。
成績評価方法・割合・基準	レポート発表内容、ゼミ中の発言回数。
授業の予習・復習(1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め)	予習: 報告者はレポートを作成すること。(2時間)それ以外の者も精読しておくこと(1時間) 復習: ゼミで学習した内容に関連し、小レポートを課す予定。
教科書	原因と結果の経済学, 中室牧子, 津川友介, ダイヤモンド社, 2017
参考文献	

回数	授業項目	授業内容
第1回	大学における研究とは	ゼミの進め方の説明、自己紹介、個人目標設定
第2回	「因果推論」の根底にある考え方(1)	「因果関係」、「相関関係」とは何か
第3回	「因果推論」の根底にある考え方(2)	因果関係を証明するのに必要な「反事実」
第4回	ランダム化比較実験(1)	因果推論の理想形「ランダム化比較試験」
第5回	ランダム化比較試験(2)	メタアナリシス
第6回	自然実験	データを用いた実験のような状況の再現
第7回	差の差分析(1)	疑似体験
第8回	差の差分析(2)	成立するための前提条件
第9回	操作変数法	第3の変数を利用する
第10回	回帰不連続デザイン	「ジャンプ」に注目する「回帰不連続デザイン」
第11回	マッチング法(1)	似た者同士の組み合わせを作る「マッチング法」
第12回	マッチング法(2)	ビジネス版ランダム化比較試験
第13回	回帰分析(1)	交通経済学の諸分野
第14回	回帰分析(2)	交通経済学とその周辺
第15回	前期のまとめ	前期のゼミの総括、夏休み中の個人研究課題の設定